

# 国 語

- 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 試験時間は50分です。
- 解答用紙はこの問題冊子の中央にはさんでいます。
- 試験のはじめに、問題冊子の表紙と解答用紙に受験番号を記入しなさい。  
(名前は書いてはいけません)
- 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 字数制限のある問いでは、句読点や記号も一字と数えます。
- 質問などがあれば静かに手を上げて知らせなさい。

受 験 番 号			

① 次の——線①～③のカタカナは漢字に直し、④・⑤の漢字は読みをひらがなで書きなさい。

① ジシヤクが北をさす。

② 駅では、順に並んでジヨウシヤしましょう。

③ セキハンでおにぎりを作る。

④ 布を裁断する。

⑤ 仕事を任せる。

② 次の語句・文法の問題に答えなさい。

問一 次の各文中の□の言葉は、それぞれ後のどこにかかりますか。一つ選び、記号で答えなさい。

① □弟がア急にイ泣き出したのでウみんなエびっくりした。

② □そのア白くてイ大きなウ犬がエうちのオ庭にカ入ってきた。

問二 次の①～③の( )に入るのにふさわしい言葉  
を、後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

① 仏の顔も( )度までで、あまりひどいとおこ  
られるよ。

② 失敗がこわくて、新しいことに挑戦するの  
( )の足を踏んでしまった。

③ あのタレントは親の( )光りでテレビに出てき  
たと言われている。

あ二 い三 う七 え八

**3** 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

黄色い花は、アブをパートナーとして花粉を運んでも  
らっていた。

一方、紫色の花はミツバチなどのハナバチをパート  
ナーに選んでいる。ミツバチは紫色を好む。紫色の花は  
紫外線も多いから、ハチは紫外線を合図にして紫色を選  
んでいるのかも知れない。

① ミツバチなどのハナバチは、植物にとっては、もつ  
とも望ましいパートナーである。

何より、ミツバチは働きものだ。ミツバチは女王蜂を  
中心として家族で暮らしている。そのため、自分の餌だ  
けでなく、家族のために花から花へと飛び回り蜜を集め  
るのだ。A、植物にとっては、それだけ、たくさん  
の花粉を運んでもらえることになる。

B ハチは頭が良く、同じ種類の花を識別して花粉  
を運んでくれる。また、ハチは飛翔能力が高いので、  
遠くまで飛ぶことができる。そのため、ハチが花粉を運  
んでくれる植物は、離れて咲いていても、しっかりと花  
粉を運んでもらうことができるのである。

この優秀なパートナーを惹きつけるために、ハチを  
呼び寄せる花は、たっぷりの蜜を用意してハチを出迎え

る。

C、これには問題があった。

蜜をたくさん用意してしまおうと、ハチ以外の他の虫も集まってきてしまう。せっかく奮発して用意した蜜を他の虫に奪うばわれてしまうのだ。

紫色の花は、どうやってハチだけに蜜あたを与えることができるのだろうか。

人気のある学校に入るためには、「入学試験」というものがある。

じつは、紫色の花も、<sup>②</sup>蜜こんちゆうを与える昆虫こんちゆうを選ぶための「選抜試験」を行うのである。

紫色の花は、複雑な形をしているのが、特徴である。

この複雑な形が、まさに入学問題である。

身近な雑草であるホトケノザの花を観察してみることにしよう。

ホトケノザは、スマレやタンポポほど知られていないかも知れないが、小学校の生活科の教科書でも紹介されるほど、身近に見られる雑草である。

ホトケノザは小さい花だが、よく見ると、なかなか美しい花を咲かせている。

下の花びらには、斑点はんでんのような模様がある。これが、蜜のありかを示す「<sup>③</sup>蜜標みつひょう」と呼ばれるものである。

蜜標はガイドマークや、ネクターガイドとも呼ばれている。この蜜標を目印にして、ハチはこの花びらに着陸する。下の花びらは、まるでヘリポートのような役割を持っているのだ。ホトケノザは、ミツバチが訪れるのには小さいが、小さなハナバチが訪れるのに着陸すると、ちようど着陸した飛行機を誘導するラインのように、花の奥おくに向かって蜜標が続いている。この道しるべに従って、花の奥深くへと進んでいくと、花の一番深いところに蜜があるのである。

横からホトケノザの花を見ると、花の形が細長く、花の中が奥深くなっている。じつは、この狭い中に潜り込んで行って、後ずさりして出てくるというのが、普通の昆虫は得意ではない。これに対して、ハチは花の奥深くへ潜っていくことを得意としているのである。

蜜標が蜜のありかを示すサインだということが理解できる頭の良さ、そして花の奥へと入っていくことのできる勇氣と体力を持った虫だけが、蜜にありつくことができる。

こうしてホトケノザは、知力テストと<sup>④</sup>体力テストによつて、パートナーとしてふさわしいハチだけに蜜を与えることに成功しているのである。

ホトケノザだけでなく、紫色をした花は、どれも蜜標

や奥に深い構造をしている。

スマレを見てみることにしよう。

スマレも下の花びらに白い模様がある。そして、花の奥深くへと潜り込めるようになっていく。スマレの花を横から見ると、花の奥を長くするために、茎が花の付け根ではなく、真ん中あたりについていて、やじろべえのようにバランスを保っていることがわかるだろう。

もともと、最初からハチが花に潜るのが得意だったのかは、わからない。ハチだけが潜れるように花は長く進化し、花に潜るように、ハチも進化をしていく。そうして、難易度を上げながら、ついには他の昆虫はたどりつけず、ハチだけが蜜を得られるように進化しているのがある。こうして植物とハチとは共に進化を遂げてきたのである。

(稲垣栄洋「花の色には意味がある」より一部改変)

問一 — 線部①「ミツバチなどのハナバチは、植物に

とっては、もつとも望ましいパートナーである」とありますが、その理由として適切なものを、次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- あ どんな色の花にも訪れるから
- い 家族のために働き多くの蜜を運ぶから
- う 小さな体で蜜をなめるのが得意だから
- え 同じ種類の花を識別して花粉を運ぶから
- お 土の中にもぐって巣を作るから

問二 [A] [C] に入る言葉としてふさわしいも

のを、次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- あ ところが
- い さらに
- う つまり
- え たとえば

問三 — 線部② 「蜜を与える昆虫を選ぶための『選抜

試験』を行う」とありますが、どのようなことを意味していますか。次の中から適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

あ 花が咲く時期を調整して、来てほしい虫を選んで  
いる。

い 他の花と違<sup>ちが</sup>うにおいを出して、受粉してくれる虫  
を選んでいる。

う 花の構造や仕組みを工夫<sup>くふう</sup>して、蜜をとれる特定の  
虫を選んでいる。

え 花の色を目立たせることで、色にひかれやすい虫  
を選んでいる。

問四 — 線部③ 「蜜標」について、次の問いに答えな

さい。

1 ガイドマークや、ネクターガイドとも呼ばれてい  
る「蜜標」とは、どんな見た目をしていますか。本  
文より八字でぬき出しなさい。

2 「蜜標」はどのような役割があるのか、本文の語  
句を使って説明しなさい。

問五 — 線部④ 「体力テスト」とありますが、テスト

をするために、紫色の花はどのような構造をしてい  
ますか。それを表す適切な言葉を、本文より六字で  
ぬき出して答えなさい。

問六 ハナバチと紫色の花の関係を通して、筆者が伝え

たかったことをまとめました。次の文の空らんに入  
る語句を、本文より四字でぬき出して答えなさい。

・植物とハチは（ ）しながら、助け合  
う関係を築いてきた。

問七 次のあゝおの各文の内容が、本文の内容として正

しい場合は○、誤っている場合は×で答えなさい。

あ 黄色い花は、ミツバチをパートナーとして花粉を運んでもらっている。

い ミツバチは紫外線を見ることができ、紫外線の多い紫色の花を好む。

う ミツバチは自分のためだけに蜜を集めるため、植物にとつては効率が悪い。

え ハチはあまり遠くまで飛ぶことができないため、近くの花しか訪れない。

お ハチは同じ種類の花を識別して花粉を運ぶ能力がある。

4 「ぼく」には、これまであまり親しい友達がいませんでした。しかし、野球チームの仲間である押野とは

少しずつ親しくなってきました。次は、そんな二人が一緒に過ごす、ある日の午後の様子です。以下の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

雑巾ぞうきんがけをしていると、押野が木戸きどからやってきた。

「なにしてんの？ おもしろそー。」

ぼくの真剣しんけんな汗あせだけの姿も、とにかく押野にはなんでもおもしろそうに見えるらしい。さっそく一緒に雑巾がけとなった。

「競争なつ。」

と、押野は一人で勝手に決めて、ぼくの返事も待たずに「よいい、スタート。」と言い、雑巾ダッシュをかけた。あつという間に片道終わって、ぼくに向かって「エイ。」と言った。

押野は、雑巾の幅全部はばを使って、少しでも早くと面積を稼かせいでいる。手のひらを置いた位置にしか力が入っていないから、押野が雑巾がけたあとは、真ん中と両側がきちんと拭ふけていない。

「雑巾は、手のひらサイズにコンパクトにしなくちゃいけないんだ。そうしないとムラになっちゃうから。」

ぼくがそう言うのと、押野は自分のやったあとを見て、「ほんとかだ。すっげ、汚い。」

① と言いつつ、「えだいちの言うとおりでな！」と大きな声で言った。押野は競争はやめて、ぼくの言ったとおりに雑巾を折りたたみ、一か所一か所に力を入れて拭き出した。木目に沿って【A】と。

② 片道が、今度はさっきの三倍くらいの時間がかかった。額からの汗の粒がつながって、いくつかの筋になって頬に流れた。

「すげー、腕いてえ。」

「うん。筋肉つくよね。」

そう言いつつ、ぼくは半袖のTシャツを肩までまくり、力こぶを作ってみせた。ぼくの細くて白っぽい腕がほんの少しだけ盛り上がった。へえ、と言いつつ、押野はおもしろそうにぼくを見る。ぼくははずかしくなって袖を下ろした。

③ 「えだいち、雑巾がけでヒットを狙うわけだな。」

押野に言われて、余計なことを言わなければよかったと反省した。押野は力をこめて丁寧に廊下を拭いてくれた。押野のやったあとは、ぼくのよりもずっときれいだった。終わった頃には、二人とも汗【B】になった。

「これ、毎日やったら、すごいよな。」

「うん。夏休みは毎日やるんだ、ぼく。」

すっげ、と押野は言い、「おれもたまには一緒にやらせて。」と言った。もちろん、とぼくは答えた。

冷蔵庫から麦茶を出して、コップに氷を入れて注いだ。まだ陽のあたっている広縁から少し下がった、確実に温度が低いであろう和室で、足を放り出した。麦茶は

【C】と冷えていておいしかった。おじいさんが毎日夜に沸かして作ってくれる麦茶だ。

「えだいち、もう一杯。」

押野が水滴だらけのコップをぼくに差し出す。氷がコップにあたって、【D】と涼しい音が立てる。

見ると、押野は庭に出ている、太陽に手をかざしていた。

「はい、麦茶。」

「おつ、サンキュ。」

押野はこちらに腕を伸ばしコップを受け取って、つめたい水滴がしたたっているコップの底をおでこにぴたとあてた。

「気持ちいい。」

真っ黒に焼けている押野の顔。腕や足の細かい産毛が金色に光って見える。

セミの声が空いっぱい聞こえる。のどを鳴らして麦

茶を飲む押野の姿は、清涼飲料水のコーマーシヤルの一場面みたいだ。

水滴のついたコップ。

陽に焼けた肌。

太陽に透ける金色の産毛。

セミの声。

夏の空。

ああ、夏なんだなって、ぼくはこれまでで、きっとはじめて感じた。こういうのを夏っていうんだなって、五年生の夏になってはじめて実感したのだった。

「えだいちのじいさんの家はでかくていいよなあ。庭も広いしさ。こういうのあこがれちゃうよ。」

押野はそう言って、おおげさにうしろに倒れた。「うひゃー。」と気持ち良さそうな声をあげながら。

ぼくも真似してひっくり返ってみた。藺草の清らかな香りが鼻をくすぐる。視線の先には高い天井がある。

こげ茶色の大きなます目。ぼくたちは寝転んだまま向きを変えて、頭どうしをくっつけて大の字になった。

「気持ちいい。」

「うん。気持ちいい。」

身体がすぐく伸びた気がした。きちんと隅々までしっかりと伸びきった感じだ。外からの風が心地いい。頭の

上のほうから、押野の頭の熱気が感じられる。友達とこんな近くにいるなんてはじめてだ。ちよつと照れくさくて、くすぐりたい。押野の髪が、ぼくの髪に触っているのがわかる。セミの声がひっきりなしに聞こえる。青い空に真つ白な雲がきれいに映る。

とたんにぼくは、すっかり安心したような、それできてとてもあせったような気持ちになった。こうしちゃいられないような、ずっとこうしていたいような。

だからぼくは、なにか考えることを探して、夏休みの宿題の自由研究のことを頭に思い浮かべた。

(八束美智子『しずかな日々』より 一部改変)

問一 「ぼく」は、何年生ですか。答えなさい。

問二 — 線部①「えだいちの言うとおりに」とありますが、えだいちは何のようなことを言ったのか、三十字以内にまとめて答えなさい。

問三 — 線部②「今度はさっきの三倍くらいの時間がかかった」とありますが、なぜですか。その理由を答えなさい。



問七

——線部④「すつかり安心したような、それでいてとてもあせったような気持ちになった。」とありましたが、このときの「ぼく」の心情についてまとめました。次の文章の空らん（Ⅰ）・（Ⅱ）には、適切な言葉を入れ、（A）・（B）には、その字数の言葉を、本文からぬき出して答えなさい。

押野といっしょにいるこの時間が、とても（Ⅰ）なものに感じられ、なかなか親しい友だちができなかったようにも、だれかと並んで過ごす時間が生まれたように思えた。けれどそれと同時に、押野と急に（Ⅱ）なったこの関係に戸惑い、（A 十字）という気持ちと（B 十字）という気持ちとが、心の中でぶつかり合っていた。

問八

この物語のテーマとして適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- あ 一人でこつこつと努力を重ねていくことの大切さ。
- い 勝利を目指して練習を続けていくことの意味。
- う 他人に親切に接することで得られる満足感。
- え 友との関係が深まっていくときの喜びと戸惑い。